

感染症内科

■ スタッフ

科長	鈴木 圭
副科長	山口 貴則

■ 特色・診療対象疾患

感染症は、あらゆる臓器で発生するため、すべての診療科において感染症診療が行われています。しかし、各診療科のみでは対応が困難な感染症もあり、感染症診療の支援を目的に、2016年4月に感染症内科が設置されました。中央部門である感染制御部、中央検査部（細菌検査室）などの病院内の感染症関連部署や、免疫不全を扱う血液内科、重症感染症治療を担う救命救急・集中治療センターと連携して診療にあたるほか、不明熱/不明炎症に対して、あるいは入院が必要な病態では、総合診療科（重症例では救命救急・総合集中治療センター）と協力して診療を展開しています。

1. 当科の特色

- 院内コンサルトを主とする感染症診療支援および院外向けの外来診療（週2回）を行っています。急を要する症例では、感染制御部と共同してコンサルトに応じています。
- 2023年度より科長が救急科長を兼任するようになり、より重症例に対しても入院診療下に集学的治療を行えるようになりました。

2. 主な診療対象疾患

- 細菌・真菌・ウイルスなどによる感染症
- 入院中患者の感染症診療支援
- 成人向けの感染症検査・ワクチン接種（実習・就職前の感染症関連検査や海外渡航前のワクチン接種）など
- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）
- 敗血症、重症呼吸不全

■ 活動実績

日本感染症学会感染症専門医・指導医の資格をもつ医師が業務にあたっています。病院内の感染症対策を担う感染制御部と連携して病院内の感染症診療支援を行うほか、COVID-19に対しても外来診療や、

総合診療科・救命救急・総合集中治療センターと連携して入院診療を行っています。特に、敗血症・重症呼吸不全に力を入れています。

1. 治療実績

- COVID-19への感染対策・診療支援：重症例・特殊病態患者を中心に、人工呼吸療法を要したり、体外式膜型人工肺（ECMO）が必要な最重症の患者を県内全域より受け入れ、総合診療科および救命救急・総合集中治療センターと共同して診療にあたってきました。
- 院内コンサルトは、毎月30例程度対応してきました。

2. 教育活動の実績

- 医学部医学科3年生PBL-チュートリアル教育における感染症症例の提示
- 医学部医学科学生への感染症教育
- 初期研修医を対象とした教育プログラム（Mie Master Courses of Infectious Disease: MiMID）の実施

3. 臨床研究等の実績

- 重症感染症における凝固障害の研究
- COVID-19の疫学調査

■ 今後の展望

細菌感染症の治療薬である抗菌薬が効かなくなる薬剤耐性（AMR）が世界的な問題になっており、抗菌薬の適正使用が求められています。感染症はすべての医師が関わる分野であり、医学生や研修医に対する感染症教育をさらに充実させていきたいと考えています。当院は日本感染症学会認定研修施設の指定を受けており、感染症専門医の取得を目指す医師のキャリア形成支援を行っています。内科領域のみならず、外科領域、免疫不全領域、救急・集中治療領域と、幅広く強みを持った特色のある感染症医を育成していきたいと考えています。今後はさらに救命救急・総合集中治療センターと連携を強化し、これまで以上に重症例の入院診療にも対応していきたいと考えています。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/kansenshonaika/>